

医師会 健康講座

アルミホイル

加藤整形外科 加藤 雅紀

幼いころから大抵の病気やケガは「ツバつけときゃ治る」「早く寝たら治る」と言われて育ちました。このような昭和な家庭環境で育った私ですので、子どもの頃に転んで膝小僧を擦りむくと特に親に言うこともなく、ツバをつけてフリーして乾かせば早く治ると思っています。でも最近は違うので

「メイストヒーリング」と言っていて、「創傷は乾かさず適度な湿潤環境を保つことで早期治癒する」というものです。つまり、キズは湿った状態の方が治りやすいというのです。これを応用したのが、指先を切断したときに行われる「アルミホイル法」という治療法です。

日常生活において指のケガというのは意外と多いものです。単純な切り傷ならすぐに良くなりますが、機械で指先を押し潰されたり、刃物で指先を切断してしまった場合には重症で、直ちに病院で処置を行う必要があります。現在では「マイクロナージャエリー」という手術の進歩により「再接着術（血管や神経を吻合して指をつなぐ手術）」が可能になりました。しかし、指の先端を切断した場合には再接着を

することが難しくなります。このような場合には、つなぐことを断念し「断端形成術（切断部分の傷をふさぐ手術）」をすることになります。しかしこの方法ですと、縫い代の分だけ指の骨を短く削る必要があるため、ケガをしたときよりも指が短くなり、見た目も悪くなる、といった問題がありました。

こんなときに登場するのが、この家庭にもある『アルミホイル』です。無理に皮膚を縫い合わせようとせず、切断したままの状態（骨や肉がむき出しのまま）で指の先端をアルミホイルで覆う治療法です。前処置として麻酔をして傷口を洗ったり、最小限に骨の先端を整えたりしますが短時間で終わります。「アルミホイル」を使用する理由は、傷が乾燥するのを防ぐとともに、断端から出る分泌液が流れ出ないように包み込むためです。この分泌液は「血餅」と呼ばれ、肉芽や皮膚の成長を促す大切な成分が含まれていると考えられています。最初のうちは黄白色の濁った臭いのある滲出液が大量に溜まってくるので、アルミホイルで覆われている皮膚がお風呂で長湯をしたときのように白くふやけ

てしまいます。これを初めて見る患者さんは、傷が感染したのではないかと驚いてしまいますが、この状態が治療の正常な経過であることと十分説明し理解してもらおうようにしています。2〜3週間もすれば、指の断端から肉が盛り上がってきて皮膚ができ、1〜2カ月のうちに指本来のふくらみをもった形に再生されてきます。爪の根元が残っていれば爪もまた伸びてきます。ただし、骨は伸びません。

このように「アルミホイル法」は優れた方法ですが、その適応や傷の管理には十分な注意とコツが必要です。万が一、途中で傷の感染が生じた場合にはかえって状態を悪化させる場合もありますので、必ず医師の管理の下で行う必要があります。

私がまだ研修医のころ、初めてこのやり方を先輩に教えてもらった時は、非常に不思議でしたし、感動したことを憶えています。どうして感染しないのだろう、どうしてこんなにきれいに指が出来るのだろう、そもそも何でこんな方法で指が治るのだろう。ヒトが本来持っている傷を治そうとする

治癒力・再生力のパワーには、本当に驚かされます。「アルミホイル法」は組織再生能を発揮できる環境を整える治療法であり、「医療とは人間が本来持つ自然治癒力を助けるべきものである」という医の基本理念に最も適った治療法であると言えます。親から貰った大切な力ラダです。つないであげるこゝが出来ない状態であれば、せめて機能的に使える指として1ミリでも長く美しく残してあげたい、そう思っています。

最後に、指先をケガされた患者さんにお知らせがございます。アルミホイルは病院にありますので、おうちの台所にあるアルミホイルは持つてこなくても結構です。



【74歳女性】
（左）犬に中指の爪の生え際から噛みちぎられ切断。（中左）アルミホイルで覆う。（中右）2週間後：白くふやけ新しく皮膚と肉芽が出てくる。（右）1ヵ月後：丸くふっくらした指先になったので、通院を中止する。